

総合計画期間の人口動向について

1. 総合計画における将来人口の見通し

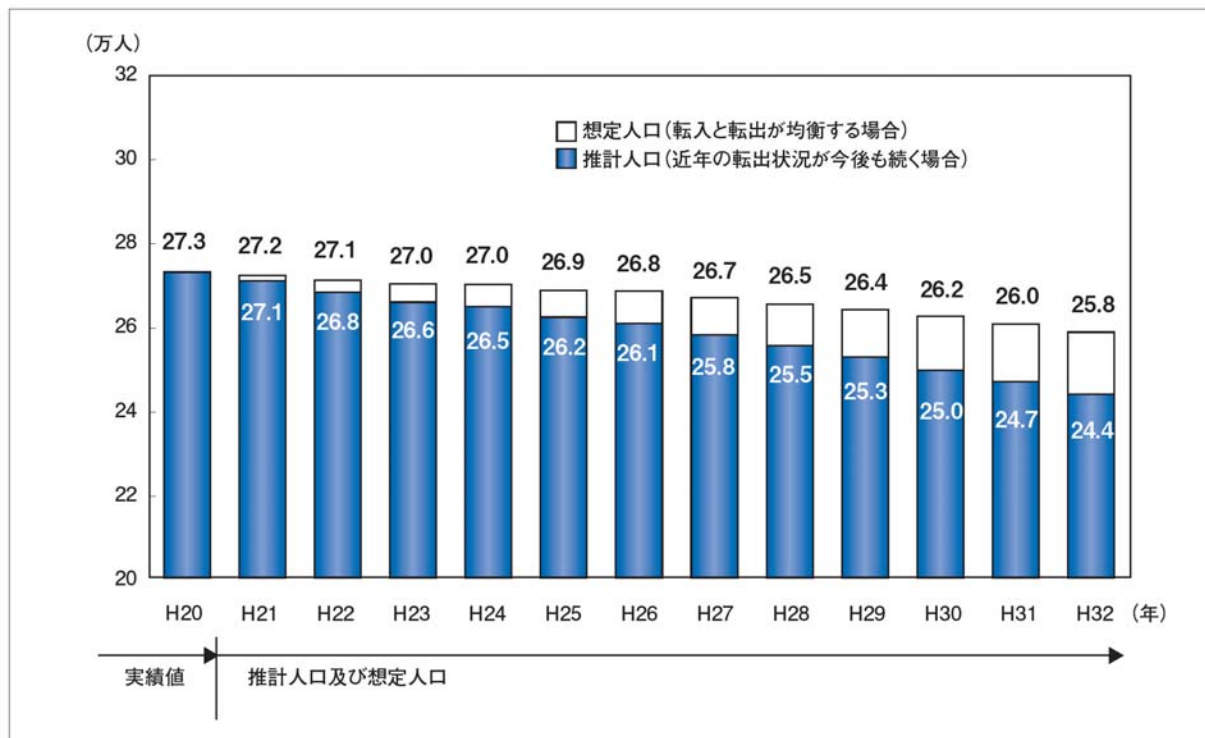
本市の人口は、昭和30年代後半から50年代前半の高度成長期を経て、伸びは鈍化し、平成3年(1991年)3月末の278,407人をピークとして、減少に転じています。近年では、転入人口より転出人口が多い社会減が続いており、自然増も少子化により少なくなる傾向にあります。

全国的に人口が減少し、今後、ますます少子高齢化が進む中、本市の近年の人口動態の状況をもとに将来人口を推計すると、平成32年(2020年)には約24.4万人程度にまで人口が減少していくものと予想されます。

人口は都市の活力の源であることからいえば、その減少はできる限りゆるやかなものになることが望ましいと考えます。本市の特性を活かして主要課題に対応し、多くの人々が「八尾にいつまでも住み続けたい」、「八尾に住んでみたい」と思うことのできるまちづくりを進めていくことにより、他の市町村への転出などの社会減を抑制し、新たな転入も含め、定住人口の確保をめざし、転出が転入を上回る社会動態を改善していきます。

上記の取り組みにより、転入と転出が均衡した水準で推移するものとする、平成32年(2020年)の人口は概ね26万人と想定されます。

図表3 推計人口と想定人口

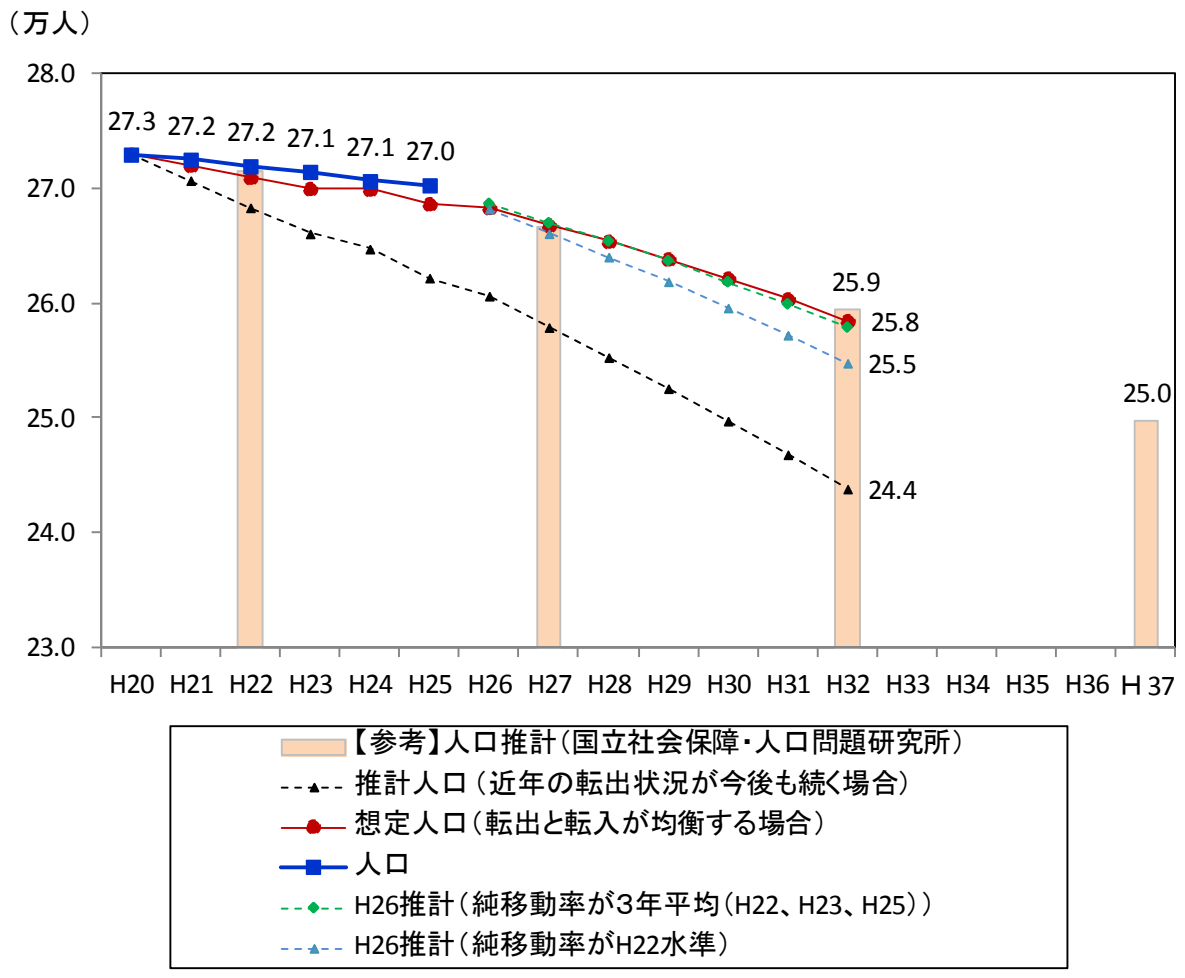


2. 総合計画策定後の人口の推移と今後の見通し

○八尾市の人口は、「想定人口」に近い傾向で推移している。

○純移動率が、過去3年平均（H22、H23、H25）で推移すると想定すると、H32の人口は25.8万人、過去5年間で最も低い水準（H22）で推移すると想定すると、H32の人口は25.5万人と推計される。（※H26推計値は暫定値）

○国立社会保障・人口問題研究所による推計によると、H32の人口は25.9万人と推計されている。

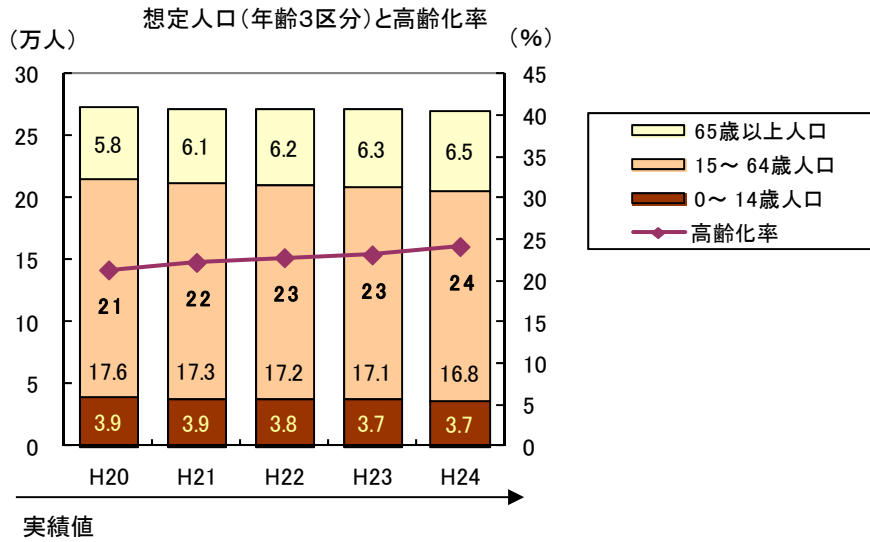


【参考】

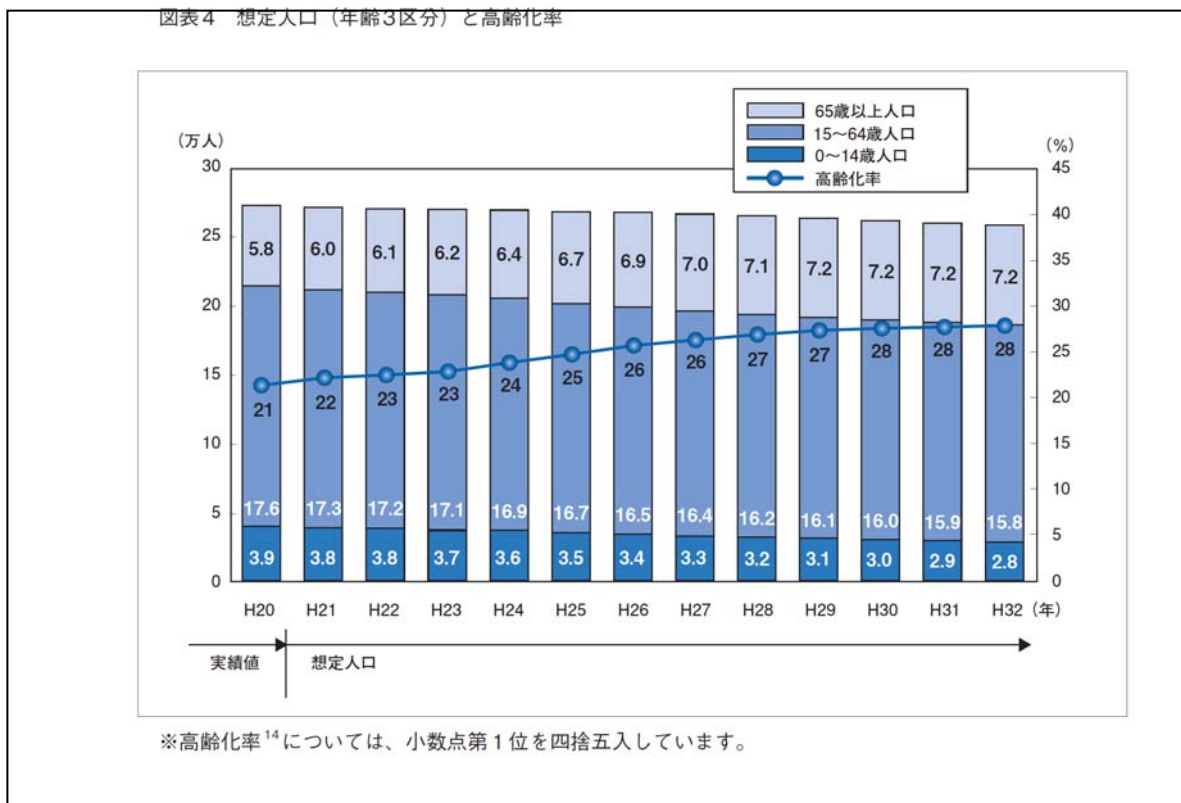
3年平均（H22、H23、H25）の純移動率 -0.09
 過去5年の最も低い水準（H22）の純移動率 -0.26

3. 人口（3区分）と高齢化率

○平成24年の八尾市の高齢化率は24.2%であり、「想定人口」の見通しと同様となっている。



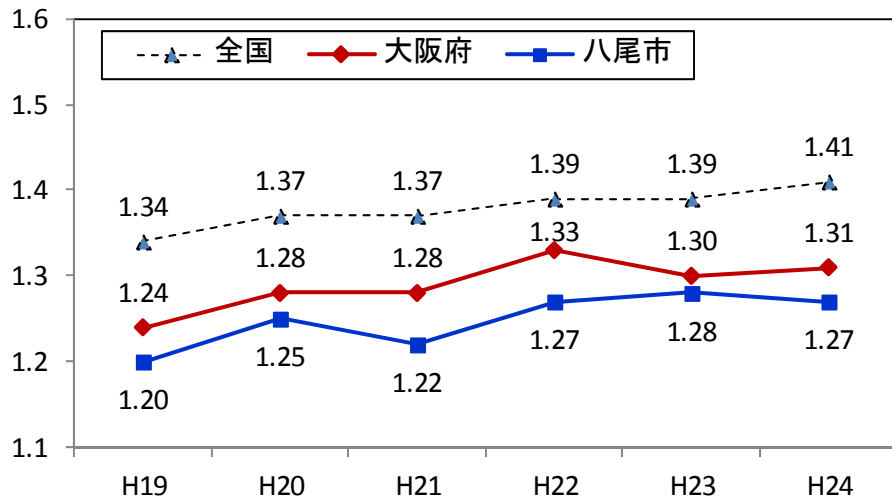
(参考) 総合計画における想定人口（3区分）と高齢化率



(参考) 人口に関わるデータの推移

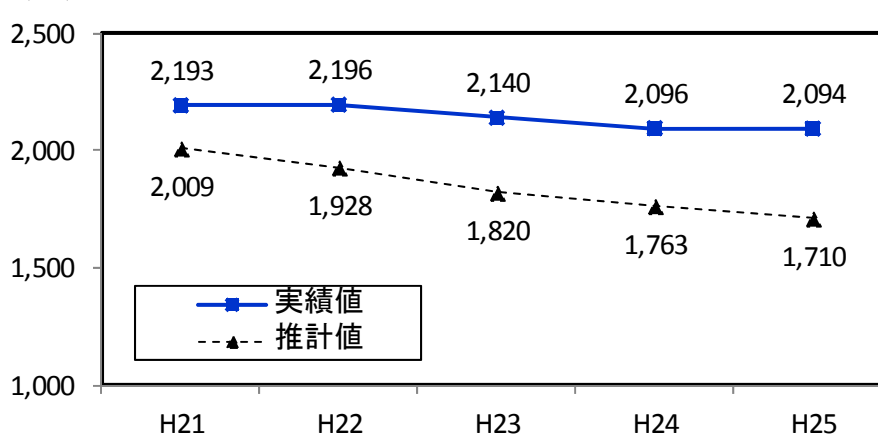
○合計特殊出生率は、八尾市・大阪府とも上昇傾向がみられる。

合計特殊出生率の推移



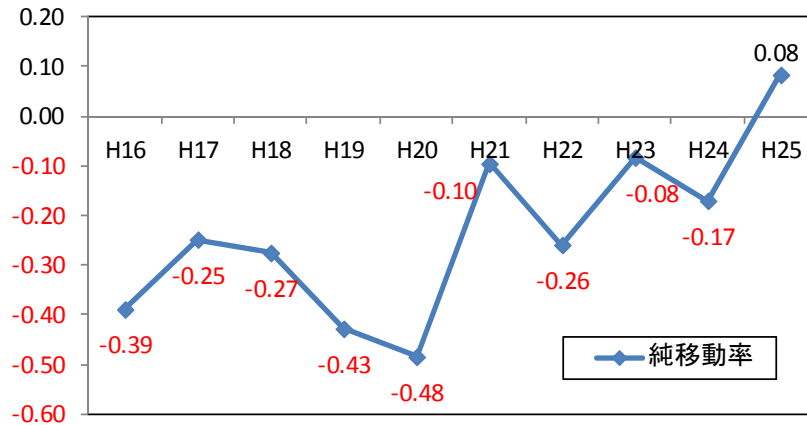
○出生数は、推計値を上回る水準で推移している。

(人) 出生数の推移



○純移動率は、平成21年以降上昇傾向に転じ、平成25年は転入超過となっている。

純移動率の推移



※純移動率＝（転入者数－転出者数）／人口

転出入者数の推移

	人口	転入者	転出者	転入-転出	純移動率
H16	274,676	9,203	10,271	-1,068	-0.39
H17	274,496	8,919	9,600	-681	-0.25
H18	273,940	8,702	9,455	-753	-0.27
H19	273,546	8,067	9,237	-1,170	-0.43
H20	272,940	7,681	9,003	-1,322	-0.48
H21	272,499	8,398	8,658	-260	-0.10
H22	271,931	7,575	8,279	-704	-0.26
H23	271,445	8,019	8,244	-225	-0.08
H24	270,630	6,411	6,871	-460	-0.17
H25	270,264	8,135	7,909	226	0.08

(注)平成24年7、8月については住民基本台帳法の一部が改正されたことによるデータ修正のため数値がない。

○分譲住宅の新設戸数は、平成20年度以降700戸程度で推移している。

